

吟遊詩人の旅 ウクライナの音楽と文学

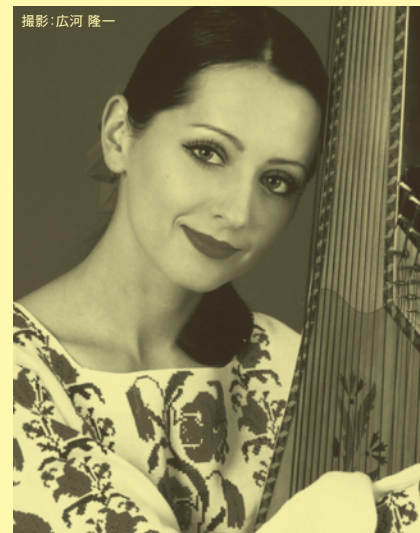
かつてひとまとめに旧ソ連の一部とされていたウクライナは、ロシアよりずっと古い歴史と伝統を持ち、プロコフィエフをはじめ数多くの音楽家を生んできました。今回のミュージック・ジャンクションは、吟遊詩人が伝えた楽器バンドウーラの繊細な響き、ナターシャ・グジーさんの澄み切った歌声、沼野充義さんのお話などを通して、ウクライナの音楽と、それと結びつきの深い詩や文学的風土にスポットライトを当ててお送りします。



ナターシャ・グジー 〈歌手・バンドウーラ奏者〉

Profile

ウクライナ生まれ。ナターシャ6歳のとき、1986年4月26日未明に父親が勤務していたチェルノブイリ原発で爆発事故が発生し、原発からわずか3.5キロで被曝した。その後、避難生活で各地を転々とし、キエフ市に移住する。ウクライナの民族楽器バンドウーラの音色に魅せられ、8歳の頃より音楽学校で専門課程に学ぶ。1996年・98年救援団体の招きで民族音楽団のメンバーとして2度来日し、全国で救援公演を行う。2000年より日本語学校で学びながら日本での本格的な音楽活動を開始。その美しく透明な水晶の歌声と哀愁を帯びたバンドウーラの可憐な響きは、日本で多くの人々を魅了している。2005年7月、ウクライナ大統領訪日の際、首相官邸での夕食会に招待され、演奏を披露。2016年7月、これまでの活動が評価され、外務大臣表彰を受ける。コンサート、ライブ活動に加え、音楽教室、学校での国際理解教室やテレビ・ラジオなど多方面で活躍しており、その活動は教科書にも取り上げられている。公式ホームページ: <http://www.office-zirka.com/>



撮影: 広河 隆一

Information

♪コンサート♪

「平成28年度 外務大臣表彰 ウクライナの歌姫 ナターシャ・グジーコンサート」
日時: 2017年3月17日(金) 開場18:00 開演18:30(120分)
出演: ナターシャ・グジー(歌・バンドウーラ)、小関基之(ピアノ)
料金: 一般2,800円 シンフォニークラブ会員2,000円
会場: かつしかシンフォニーヒルズ アイリスホール(東京都葛飾区立石6-33-1)
お問合せ: かつしかシンフォニーヒルズ (TEL: 03-5670-2233)

♪CD♪



NEW 1月4日リリース!!

「命はいつも生きようとしている」
製品番号: POCs-1534
1,950円(税込)

小椋佳のヒット作品をカバーしたアルバム
新作「命はいつも生きようとしている」収録



「旅歌人(コブザーリ)」
製品番号: ZIRKA-1401
3,240円(税込)

来日15周年記念アルバム

沼野 充義 〈東京大学大学院教授〉

Profile

東京大学大学院人文社会系研究科・文学部教授(スラヴ語スラヴ文学、現代文芸論)。1954年東京生まれ、1984年ハーバード大学修士、1985年東京大学大学院博士課程満期退学。ワルシャワ大学、モスクワ大学で客員講師、ハーバード大学世界文学研究所講師をつとめる。ロシア・ポーランド文学、現代文芸論専攻。主な著書「亡命文学論」(作品社、2002、サントリー学芸賞)、「ユートピア文学論」(作品社、2003、読売文学賞)、「チーフホフ 七分の絶望と三分の希望」(講談社、2015)、編書「ポケットマスターピース10 ドストエフスキー」(集英社文庫ヘリテージシリーズ、2016)、「18歳から80歳までの世界文学入門 対話で学ぶ(世界文学)連続講義4」(光文社、2016)、共編著「岩波講座 文学」全13巻+別巻1(岩波書店、2002-2004)など。
Twitterアカウント: @MitsuNumano



第1部

1. バンドウーラを手にすれば
2. 深い井戸
3. 眠りたくないの
4. もし刺繍ができたなら
5. 木の根
6. わがキエフ

— 休憩(10分) —

第2部

7. 広きドニエプルに吹き荒ぶ嵐 ほか
8. 旅歌人(コブザーリ)
9. 白い翼

※演奏曲目、曲順等は変更になる場合があります。ご了承ください。

Взяв би я бандуру

バンドウーラを手にすれば
ウクライナ民謡 / 和訳 ナターシャ・グジー

Взяв би я бандуру
Та й заграв, що знав.
Через тую бандуру
Бандуристом став.

А все через очі..
Коли б я їх мав,
За ті карі очі
Душу б я віддав.

Марусино, серце,
Пожалій мене,
Візьми моє серце,
Дай мені своє.

Де Крим за горами,
Де сонечко сяє,
Там моя голубка
З жалю завмирає.

Взяв би я бандуру
Та й заграв, що знав.
Через тую бандуру
Бандуристом став.

もしバンドウーラを手にしたら
私の知っている曲を爪弾くでしょう
このバンドウーラによって
私はバンドウーラ弾きになるでしょう

すべては(私の見えない)瞳のせい・・・
私のものにできる(見える)なら
その茶色の瞳のために
私の魂を捧げましょう

愛しきマルシーナ
私を憐れんでください
私の心を取り
自分の心をください

山々の彼方クリミア
太陽の輝くところ
そこで私の愛しい人が
嘆きながら暮らしている

もしバンドウーラを手にしたら
私の知っている曲を爪弾くでしょう
このバンドウーラによって
私はバンドウーラ弾きになるでしょう